

8年2組 美術科学習指導案

1 単元名 (11/18)

空間を彩る「やすらぎの部屋」(デザイン)

A表現(1)イ(イ)(2) B鑑賞(1)ア(イ)

2 指導について

この時期の生徒は、大人に向けて体や心も成長する時期で、知的な理解力も一層高まるとともに、物事を表面だけでなく内面や本質で捉えることにも価値や関心が高まる時期である。学びへの好奇心が高まる一方で、自分にとってその学びがどのような意味や価値があるかなどを考える生徒も少なくない。美術は感覚的な学びも必要であるが、生徒が「なるほど」「わかった」「できた」などの学びの実感を得られることも大切である。美術には、長い歴史の中で多くの人々が試行錯誤しながら発見し、蓄積してきた造形的な視点や考え方、表現方法などがある。学習を通して、使う人のためにデザインがどのように工夫され、生み出されているのか、その過程を学ぶことで新たな発見があり、美術の学びが深まっていくと考える。

本題材導入時には、2つの部屋のイラストを比較することを通して、部屋におかれた物や色彩からその部屋に住む人の好みや暮らしなどが想像でき、やすらげる空間になっている面白さに気付き、題材のねらいを理解し、見通しをもたせたい。また、レオナルド・ダ・ヴィンチ作「受胎告知」や「最後の晩餐」の鑑賞を通して、遠近感があり、空間感を感じる作品に使われている技法が透視図法であることを学ぶ。透視図法は絵画のみならず、建築の設計図や漫画・アニメの背景などにも使われており、歴史の中で生み出されてきた技法が現代の自分たちの生活と結びついていることを知ることによって、作品制作への意欲を高めていく。

作品制作においては、身近な人に「やすらぎの部屋」についてインタビューし「趣味に没頭して過ごしたい」「家族や友人と楽しく過ごしたい」などのような部屋のイメージを具現化していく喜びを味わえるようにしていく。相手意識をもち、社会と繋がる視点をもたせながら主題を追求していきたい。アイデアスケッチの段階では、配置(レイアウト)、大きさ、形といった造形的な視点を変えることで部屋の印象が変わることに気付き、試行錯誤しながら理想的な部屋のデザインを追求していく。

彩色の段階では、既習の色の三要素(明度、彩度、

色相)を基にした配色による印象の違いを学び、主題にあった表現をさらに追求できるようにしていく。

4 研究との関わり

研究①に関わって

①物の位置(レイアウト)を変えた部屋、②大きさを変えた部屋、③形を変えた部屋を比較することによって、部屋の印象が変わることに気付き、相手の生活をより豊かにするためにはどう表現するとよいか、課題追究の方向を明確にできるようにする。

研究②に関わって

導入時にグループの仲間と本時の自己課題を交流する時間を設ける。仲間に話すことで①自己課題の明確化、②仲間の意見からの新たな視点への気付きができるようにする。また、終末時にも交流し、本時の制作を通して変化したよさを互いに認め合うことができるようにする。制作中もグループ隊形で活動を行い、仲間の様子が自然と感じ取れるようにする。

研究③に関わって

終末時には前回の作品と本時の作品を比較し、造形的な視点を基に表現の工夫を行ったことで、作品がどう変容したかを振り返りワークシートに記入する。また、グループ交流を行い、仲間からの評価を聞いたり、仲間の作品を見たりすることを通して、表現の変容のよさ・改善点に気付き、次時につながる課題意識をもてるようにする。

6 本時のねらい

「理想の部屋を描く活動を通して、配置・大きさ・形を変化させるよさ（造形的な見方・考え方）に気付き、自分の主題にあった表現を構想することができる。 【思考・判断・表現】

7 本時の展開 (11/18)

展 開	学 習 活 動	指 導 ・ 援 助
導入	<p>1. 教師の作品を鑑賞し、本時の課題をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 部屋に置く物の配置、大きさ、部屋の形を変えた作品を例示して造形的な視点を確かめ、相手の好みや暮らし方を考慮し、より生活を豊かにするデザインにするにはどうするとよいか考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>課題 相手により魅力を感じてもらえるように（物の配置・大きさ・部屋や物の形）を工夫して部屋をデザインしよう。</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>研① 追求の方向と方法を明確にもてるようにする導入</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 同じテーマの作品でも、形や大きさを変えたりすると印象が変わることに気付けるようにする。 教師の例示から、造形的な視点について考えられるようにすることで課題化を図る。
展開	<p>2. 前回のラフスケッチを基に、本時取り組みたい内容についてグループで交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ひなたぼっこができて、のんびりできる部屋がいいと言っていたから、大きな窓のある部屋に大きさを変えてみようと思う。 兄の趣味のものを並べた棚を注目させたいから、棚の位置を変えてみようと思う。 猫と暮らす部屋にしたいから、猫が登って遊べるように階段のある部屋に形を変えてみたいな。 <p>3. 造形的な視点を变化させ、アイデアスケッチを描く。</p> <ul style="list-style-type: none"> コレクションを並べる棚を机の前に置いたら、好きなものを眺めながら勉強できていいかな…。でも、目の前にあると集中できなくなるから、視線より上の位置がいいかな…。 お父さんは趣味と仕事をきっちり分けたいタイプだから、部屋を仕切ったほうがいいかな…。 お姉ちゃんが音楽を楽しめる部屋にするには、こっちとこっちでどっちのほうがいいかな…？ <p>4. 前回と本時の作品で变化させたところをグループで交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 天井の形を四角からアーチ型に変えたことで、広く感じるね。コンセプトの解放感のある部屋に近付いたね。 この部屋で〇〇してみたいね。さらに配置を変えてみるとこの部分がより魅力的に見えそうだね。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>研② 技能や表現の交流ができる場の設定</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> どう取り組むか迷っている生徒も仲間との意見交流から、自己課題を見付けることができるようにする。 仲間に伝えることで自己課題を明確にする。 グループ隊形にすることで、自然と仲間の制作が目に入るようにしたり、迷ったときに相談できたりするようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>研③ 表現の変容やできたこと・わかったことを明確にする振り返り</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 前時と本時のスケッチを並べて見比べることで変容を確かめる。 グループで課題の振り返りを行うことで、作品の変容を認め合う。
まとめ	<p>○振り返り 前回と今回のスケッチの写真を撮り並べてロイロノートへ提出する。</p> <p>○まとめ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> 私は母が趣味の園芸を楽しめる部屋にするために、窓の大きさを変えて、部屋と庭につながる部分がよく見えるようにした。庭を眺めて癒される部屋になったと思う。 最初はどう変えたらいいか迷っていたけど、友達にアドバイスをもらって位置を変えてみたら、兄のコレクションを並べる棚がよく見え、楽しめる部屋になったと思う。 </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>評価規準 自分の主題に合った表現方法を試し、物の配置・大きさ・部屋や物の形を工夫して作品の構想を練っている。【ワークシートの記述・発言の内容】</p> </div>

外国語科学習指導案

1 単元名 NEW HORIZON English Course 2 (東京書籍)
Unit 6 How can we make a good presentation? (10/11)

2 単元の目標

ALT や仲間が学級のことをさらに詳しく知るために、自分がクラス内で実施した調査内容についてデータを比べた上で、事実や自分の考え、気持ちを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話し、伝えることができる。また、仲間のプレゼンテーションを見て、感想を伝えることができる。

3 「Can-do リスト」の形での学習到達目標 (第8学年)

話すこと [発表]	イ 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができる。
読むこと	ア 日常的な話題について、目的に応じて、また自分の置かれた状況などから判断して、簡単な語句や文で書かれたものから必要な情報を読み取ることができる。

4 言語材料

◇表現 ○○ is <(more) 比較級(...er)> than ~. ○○ is <the (most) 最上級 (...est) >.

○○ is (not) as 原級 as ~.

○語彙 興味関心を表現する語彙 (interesting, popular)、スポーツに関する語彙 (soccer, baseball)
調査結果の発表に必要な語彙 (according to, as for, in conclusion) など

5 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
話すこと (発表)	<p><知識> 比較級や最上級、同等比較の表現を用いた文の構造を理解している。</p> <p><技能> 学級で人気なものについて、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、比較級や最上級、同等比較の表現などの簡単な語句や文を用いて話して伝える技能を身に付けている。</p>	<p>ALT や仲間が学級のことをさらに詳しく知るために、自分がクラス内で実施した調査内容について、データを比べた上で、事実や自分の考え、気持ちを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話し、伝えている。</p>	<p>ALT や仲間が学級のことをさらに詳しく知るために、自分がクラス内で実施した調査内容について、データを比べた上で、事実や自分の考え、気持ちを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話し、伝えようとしている。</p>
読むこと	<p><知識> 比較を表す語句の意味や働きを理解している。</p> <p><技能> 比較を表す語句などの意味や働きの理解を基に、クラスで人気なものについて書かれた文章の要点を読み取る技能を身に付けている。</p>	<p>クラスの中で人気なものを知るために、人気なものについて書かれた文章の必要な情報を捉えている。</p>	<p>クラスの中で人気なものを知るために、人気なものについて書かれた文章の必要な情報を捉えようとしている。</p>

6 単元について

(1) 教材観

本単元は、南アフリカ共和国出身のエディが、自分たちのクラスのことをより詳しく知るために、学級内でインタビュー活動をしたり、結果を発表したりしている場面である。各パートでは、トピックをスポーツに決めたエディのインタビューや発表の様子、それに対するフィードバックが示されている。そこで登場するのが、単元を通して取り扱う比較級や最上級、同等比較の表現である。これらの表現は、二つ以上のものを比べるために活用できる表現としておさえる。本時Read and Think 2においては、同等比較の表現を新出表現として扱うが、伝えたい内容に応じて、前時までに学習した比較級や最上級も同様に活用するよう指導し、表現の定着を図る。

(3) 指導観

単元の出口では、学級のことをより詳しく知るために、各グループで決めたトピックについてお互いにインタビューをし合い、調べて分かったことを発表する。そのために、第1時では、単元の題材や出口の活動を知り、学習の見通しをもつ。第2・4・6・8時では新出の文法表現を学習する。第3・5・7・9時では、学習した表現を活用し、教科書で示された場面・状況の中で対話活動を行う。本時では、Small TalkでALTにプレゼンテーションの感想を伝える。そのプレゼンテーションから自分の発表に取り入れられるよさを考え、自分の発表を再構築する。

7 研究とのかかわり

研究①に関わって

本時 Small Talk においても中間指導を行い、表現の共有をしたり、必要に応じてヒントカードを使うように促したりすることで、既習表現や本文の表現を活用して、目的・場面・状況に応じた言語活動ができるようにする。

本時のねらいに関わる展開部分での中間指導では、さまざまな視点から生徒のプレゼンテーションの再構築の様子を紹介することで、話し方、調査の内容、プレゼンテーションの構成、表現の内容などの視点でプレゼンテーションを再構築できることに生徒が気付けるようにしていく。

研究②に関わって

<u>ペアでの活動</u> ⇒何度も対話活動を繰り返し、表現を増やしたり、修正したりする場面
<u>グループでの活動</u> ⇒複数人で役割を分担したり、表現を練り合ったりする場面
<u>スクランブルでの活動</u> ⇒よりたくさんの情報や学級全員とのやり取りが必要な場面
<u>伝え合う活動</u> ⇒自分の考えや気持ちを伝え合う活動
<u>比較する活動</u> ⇒自分の表現と仲間の表現を比較し、表現を増やしたり、変えたりする活動
<u>まとめる活動</u> ⇒交流して得た情報をまとめる活動

本時では、より分かりやすいプレゼンテーションを目指して、必要な活動を生徒が考え、学習を進める。個人でプレゼンテーションの内容を再構築するが、生徒自身が目的に応じてグループで活動するのか、スクランブルで対話活動を行うのかを選択して、学習を進められるようにすることで、自然発生的に協働的な学びが展開できるようにする。

研究③に関わって

展開部分では、前時作成した原稿に変更内容を赤字で書き加えるよう指示をする。それにより、終末でプレゼンテーションの内容の変容に気付く、本時を通してよりよく改善できたと生徒自身が実感できるようにしていく。

9 本時の学習 (全11時間中の第10時)

(1) 本時の目標

学級で人気なものを分かりやすく伝えるために、プレゼンテーションの内容について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて、プレゼンテーションの内容を再構築することができる。

【思考・判断・表現 / 主体的に学習に取り組む態度】

(2) 本時の展開

時間	○学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準【評価方法】				
導入	<p>1. Small Talk “What do you think about Sebastian's presentation?”</p> <p>○ALTのプレゼンテーションを見て、分かったことやよいと思ったところを書く。</p> <table border="1"> <tr> <td>よいところ</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・はきはき話していて、聞きやすい。 ・みんなの方を向いて話していた。 ・グラフや写真があって、分かりやすい。 ・自分の知っている人が出てきて、おもしろかった。 </td> </tr> <tr> <td>情報</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・J-POPがクラスで1番人気だと分かった。 </td> </tr> </table> <p>○ALTのプレゼンテーションについての感想を伝え合う。</p> <p>A: What do you think about his presentation? B: He spoke clearly. How about you? A: I think his presentation was very good because his topic was interesting.</p> <p>2. Today's aim</p> <p>Let's improve my own presentation.</p>	よいところ	<ul style="list-style-type: none"> ・はきはき話していて、聞きやすい。 ・みんなの方を向いて話していた。 ・グラフや写真があって、分かりやすい。 ・自分の知っている人が出てきて、おもしろかった。 	情報	<ul style="list-style-type: none"> ・J-POPがクラスで1番人気だと分かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ALTが「今度、他のクラスでプレゼンテーションをするのだけど、僕のプレゼンテーションどうかな？」と投げかけることで、生徒がALTのプレゼンテーションについて感想を伝え合うという目的意識をもってSmall Talkに取り組むことができるようにする。 <p>研①：一人一人が表現を広げるための支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒が必要に応じて、プレゼンテーションを見返すことができるように、ALTのプレゼンテーションを撮影し、その動画を学習支援アプリで配付する。 ・中間指導では、言語活動で活用できそうな既習表現をヒントカードとして、学習支援アプリで送る。必要に応じて、ヒントカードを使うように促す。 <p>研③：目指す姿を明確に示す課題提示</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ALTのプレゼンテーションに対する互いの感想を提示し、ALTのプレゼンテーションから自分たちに取り入れられるよさはないか問う。そうして、生徒が本時の活動の目的や見通しを、明確にもつことができるようにする。 	
よいところ	<ul style="list-style-type: none"> ・はきはき話していて、聞きやすい。 ・みんなの方を向いて話していた。 ・グラフや写真があって、分かりやすい。 ・自分の知っている人が出てきて、おもしろかった。 						
情報	<ul style="list-style-type: none"> ・J-POPがクラスで1番人気だと分かった。 						
展開	<p>3. Thinking Time</p> <p>○自分のプレゼンテーションをどのようにするとよりよいものにできるかを考え、それぞれ必要な活動を行う。</p> <p>想定される活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表現を調べる。 ・原稿に表現を付け加えたり、変更したりする。 ・再度、調査を行う。 ・発表の練習をする。 <p>○中間交流</p> <p>○後半の活動</p>	<p>研②：目的に応じた学習形態の選択</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の発表の内容を再構築する活動は、個人で行う形でスタートするが、必要に応じてグループで表現内容を練り合ったり、インタビューなどをして調査を再度したりすることを促し、生徒自身がグループで活動するのか、スクランブルで対話活動を行うのかを選択して、学習を進められるようにする。 <p>研①：一人一人が表現を広げるための支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中間指導では、表現を付け加えたり、変更したりした生徒を紹介し、どのような視点で発表内容を見直すとよいか全体で確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒は、前時作成した原稿に、変更内容を赤字で書き加える。本時改めて原稿を回収し、評価する。 				
まとめ	<p>4. Review</p> <p>○表現の変容を確認する。</p>	<p>研③：目指す姿にどれだけ近付くことができたか振り返る時間の位置付け</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表現がどのように高まっているのかを問い、本時の変容に気付かせる。 	<p>評価規準</p> <p>学級で人気なものを分かりやすく伝えるために、内容面と話しぶりについて事実と自分の考えを整理し、表現内容を再構築したり、話し方を工夫したりしている。【記述内容】</p>				

9年2組国語科学習指導案

1 単元名 (2/10)

『価値を生み出す』(「それでも、言葉を」)

2 指導について

本単元は、「筆者の見方・考え方についての理解を深め、論理展開などについて批判的に読んで評価すること」「仲間や文章そのものとの対話を重ねることで、自分自身の意見を明確にもつこと」をねらいとしている。そのために、論説や話し合いの学習を通して考えを深め、新しい価値や見方を生み出すことを学習活動としている。

教材文「それでも言葉を」において筆者は、現代社会の言葉の惨状について危惧している。一方で、私たちは言葉の力に支えられてきたという事実も挙げ、二極化の時代だからこそ、両端の間に息づく言葉や多様なグラデーションを許容する言葉のありように注目したいとして、言葉に対する思いを結んでいる。

本教材を学習する前に、筆者が担当している「折々のことば」というコラムを数点提示する。同時に終末において、「〇〇に紹介したい言葉」として言葉のコラムを各自で書く言語活動を行うことを共通理解する。そうすることで、生徒が学習の見通しをもち、「筆者は言葉に対してどのように捉え、表現しているか」を理解し、「自分のコラムに生かせるようにしよう」と目的をもって学習が進められると考える。教材を読むにあたっては、「納得したこと・共感したこと」「分からないこと・疑問に感じたこと」「大事だと思ったこと(筆者の主張)」の三つの視点を意識して読むようにする。その中から「分からないこと・疑問に感じたこと」や「大事だと思ったこと」について交流・整理し、筆者の主張に迫るための課題を各自で設定していく。各自の課題に対して個別追究を行う中で、「分からない点」と「課題について、自分はどのように考えるのか」をはっきりさせて、本文に対する自分の思いをメモした上で、同じ課題を設定した生徒同士で小集団交流と発表を行うようにする。生徒一人一人が学ぶ必然性を感じ、意欲をもって学習に取り組むことができるようにしていく。

生徒は、言葉の二極化について、自身の体験を振り返って、共感を覚えると考える。そこで、今まで学習・体験したことを総動員して自身を振り返ることで考え

構築できるようにしていく。義務教育修了段階にあたり、社会生活に生きて働く「読むこと」の資質・能力を培うことができるようにしたい。

4 研究との関わり

研究①に関わって

初読の際には、「納得したこと」「疑問に感じたこと」「大事だと思ったこと(筆者の主張)」という三つの視点を意識して読み、線を引き分けるようにする。自分の考えを視覚化すると共に、学習課題を自分で選択することで自分に合った課題を選んで学習に向かうことができるようにする。

研究②に関わって

研究①で行った学習課題について、内容に合わせた小集団を作り、例証や反証などを行いながら小集団で話し合うことで筆者の考えについて理解を深められるようにする。

研究③に関わって

毎時間、自分が学習したことの中から、筆者の見方や考え方で自分の言葉のコラムに生かしたいものをロイロノートにまとめて提出する。そうすることで、単元での学びの蓄積を行い、学んだことを生かして、コラムを書くことができる。それが自己の変容や学びの実感となると考える。

6 本時のねらい

筆者の抽象的な表現について、視座や視点を変えたり、例証や反証したりすることを通して、筆者の見方・考え方について考え、説明することができる。 【思考・判断・表現 読むこと (イ)】

展開	学習活動	指導・援助
導入	<p>1. 本文を読み、「疑問に思ったこと」を取り上げ、全体で考えることで本時の課題化につなげる。</p>	<p>研① 自分で決めた課題に対して、個別で考える時間を設定し、考えたことを各自メモする時間を確保する。</p>
展開	<p>課題 筆者の考えや主張について、見方を変えたり、具体的な事象に置き換えたりして分かったことや考えたことを説明しよう。</p> <p>2. 「疑問・大事だと思ったこと」の中から、筆者の主張に繋がる箇所を一つ選び、自分の経験とつなげて具体例を挙げたり、反対の例を出したりしながら、考えたことをロイロノートの共有ノート（班ごとに作成）に右の四つの視点で書き込む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・P174 L9の「大量の言葉を前に、じっくり言葉と向き合い思考する時間も、吟味して言葉を選ぶ心の余裕もなくなっている。」という所は、年齢に関係なく忙しくしていて、やらなくてはならないことに追われているということを目指していると思う。 ・P174 L3の「言葉の肌理」は、よく分からないけれど、その次にある「言葉の背景にある体温や手応えに…」というところは、分かる気がする。言っている内容が正しくても、言い方によって納得できないことはある。 <p>3. 筆者の「言葉」に対する見方・考え方について共有ノートに書き出したことを、同じ課題の生徒同士の小グループで交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「知的耐性がない」「思考停止に陥り…」は、分からなくて、すぐに投げ出してしまうことだと思う。自分も分からない問題を投げ出してしまうことがある。 ・P175 L7の「言葉の可能性」は何となく分かるけれど、具体的に言うとどんなものがあるだろう。 <p>4. 3でまとめた意見について、ロイロノートを共有し、全体交流を行う。同じ課題を選んだグループの中から筆者の考えや主張に迫っていたもの、意見の相違等で全体で考えたいものを取り挙げる。</p> <p>☆ 筆者は、「多様なグラデーションを許容する言葉のありように注目したい。」言っているが、筆者が提案する言葉のありようとはどのようなものだろうか。</p> <p>5. 本時の課題に対するまとめをノートに書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・筆者の考えについて例証や反証をする際には、自分の経験と結び付けて具体的な例を挙げながら、筆者の見方や考え方について理解を深められるように助言する。 ・自分の考えを書くことが難しい生徒については、疑問に感じたことを書き出すように助言する。 ・話し合いに行き詰っているグループについては、同じ課題について考えているグループに特派員として助言をもらいに行くよう声を掛ける（代表者） <p>研② 課題に対して考えたことを同じ課題の生徒同士の小グループで交流し、グループの意見としてまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交流で出た意見を次の視点で簡潔にまとめる。（ロイロノート） ①取り組んだ課題 ②課題に対する解釈を具体例や体験を挙げて説明する ③意見が分かれたこと ④話し合いで解決できなかったこと
まとめ	<p>筆者は、現代社会は、「あそび」がなくなっているため、「言葉」についてじっくりと考える時間がなく攻撃的になっていると考えている。言葉と思考が二極化している時代だからこそ、適切な距離で探り合う言葉が求められていると分かった。</p> <p>また私は、筆者の「言葉がまるでうぶ毛をなくしたかのよう…」のように筆者が文章の中で比喩表現を使って言葉の惨状を表していることがとても分かりやすく共感した。自分がコラムを書く時には使いたいと思った。</p>	<p>研③ 筆者の見方・考え方の中から、納得したことや共感したことをロイロノートに簡潔にまとめ提出する。</p> <p>評価規準 筆者の抽象的な表現を身の回りの具体的な事象に置き換えて考える等の活動を通して、筆者の考えについて理解を深めている。 【ノート・発言】</p>

9年3組北方科学習指導案

1 単元名

「北方町の将来を考える」(9/15)

2 指導について

北方科の目標は、北方町の自然、文化、歴史などを学ぶことを通して、ふるさと北方への誇りと愛着をもち、未来を切り拓く力を育むことである。そこで北方科では、各教科で学習した内容や、これから学習する内容について、北方町の教材で学習することや、各教科の学習を通して獲得する資質能力をさらに深めることを目指している。

本単元は、9年間学習した北方科の最後の単元であり、「こんな町にしたい」という願いを実現させるために、今まで学習してきた内容を踏まえて、北方町をより発展させるために何を行うとよいのかを考える。生徒は、8年生までに、北方町の商業、農業、工業、伝統文化について学習しており、9年生において、北方町の財政状況や行政の仕組みを学習してきた。

本時では、北方町の商業、農業、工業の営みや伝統文化を手がかりに、北方町を活性化するための提案を検討する。主に9年生で学習してきた「住みやすい町を作る」という行政側の視点だけでなく、今後北方町で生活し、公的サービスを受ける側の視点など、さまざまな視点から自由に考え提案できるようにすることを目指す。そのため、授業の展開では、これまで北方科で学んできた内容を想起する活動に加え、「こんな北方町にしたい」「北方町でこんなことをしたい」というテーマでブレインストーミングを行う。その後、KJ法を用いて班内で出たアイデアからいくつかの大分類を作成し、作成した大分類を学級内で共有した上で、その中から今後自分が探究したい大分類を決定する。自分たちで大分類を発案し選択する活動を通じて、北方町について主体的に考える意欲を育みたい。

また、今後の授業においては、同じ大分類を選択した生徒でグループを作成するとともに、北方町が公表している「第2期北方町総合戦略」といった資料を用いた調査や他の市町村との比較、家族や近隣住民への聞き取り等を行い、よりよい北方町にするための提案を練り上げていく。

4 研究との関わり

研究①に関わって

一人一人が自分の考えをもつことができるよう、他の市町村の事例や、過去の提案文書、今までに学習してきたことを自由に閲覧できる資料を用意する。必要な資料を自分で選択し、使えるようにできると良い。さらに、自由な発想を尊重し合いながら、意見交流を行う場を設ける。その上で、学級で意見交流を行い大分類から、自分が今後探究したい大分類を決定していく。自分の意見を表出したり、自分の意思で大分類を決定し探究を行ったりすることが個別最適化における「学習の個性化」に繋がると考える。

研究②に関わって

本時では、既習内容の想起とブレインストーミングを行った後、班でKJ法を用いた意見の集約を実施する。具体的には、自分の意見と他者の多様な意見を共有しながら、似た意見や関連する意見を丸で囲ったり、線で繋いだりして大分類にまとめていく。この合意形成を行う過程において、他者の意見を知ることによって自分の意見が強化されたり、独自性を認識できたりするとともに、作成される大分類の質的向上が期待される。

研究③に関わって

本時の終末では、自分が授業の最後に選択した探究テーマとその選択理由、今後の方針を記入する。ここで記入した内容を今後の授業の振り返りや北方町に向けたプレゼン完成の段階で振り返ることで、自己の考えがどのように変容したかを確認する。特に、他の人の意見から自分が受けた影響(提案の強化、補足、変更など)について記述を通じて振り返ることに重点を置く。

6 本時のねらい

「こんな町にしたい」という願いを交流することを通して、その実現のためには、北方町の財源や環境など考慮すべき面があることに気づき、それらを踏まえてよりよい北方町の実現に向けた探究テーマを決定することができる。

【思考・判断・表現】

7 本時の展開 (9/15)

展開	学習活動	指導・援助						
導入	<p>1 前時を振り返り、「北方町をこんな町にしたい」という願いを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなにやさしい町。 ・みんなにとって住みやすい町。 ・誰もが安心して暮らせる町。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> 自分たちが育ってきた北方町の将来をえがき、「こんな町にしたい」という提案のテーマを考えよう。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートでどんな意見が出たかを確認する。 ・授業の終わりに、明確な根拠をもとに提案のテーマを決められるように伝える。 ・8年生までに学習してきた北方町の実態を踏まえ、テーマに関わる視点を与える。 						
個人活動	<p>2 付箋に「こんな町にしたい」「北方町でこんなことをしたい」をテーマに自由に願いを書く。</p> <p>【視点】福祉 スポーツ 教育 子育て レジャー 高齢者など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の勉強が楽しくなるような工夫がされている町にしたい。 ・子育て支援センターをもっと増やしたい。 ・高齢者が無料で利用できるコミュニティバスを作りたい。 ・スポーツクラブで有名な町にしたい。 	<p>研①</p> <p>自分の興味あることや経験から自由に発想出来るよう声かけや発問を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒が提案とともに理由も書けるように大きい付箋を用意する。 						
班交流	<p>3 班で付箋に書いた内容を交流し、グループに分類する。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%;">教育 学び</td> <td>学校の勉強が楽しくなるような工夫がなされている町 動物園や博物館など、学べる施設がある町 など</td> </tr> <tr> <td>レジャー スポーツ</td> <td>スポーツクラブの発足 動物やペットに優しい場所がたくさんある町 など</td> </tr> <tr> <td>伝統文化</td> <td>文化財をテーマにした博物館 円鏡寺をテーマにしたアニメを作りたい など</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・動物園を作りたい。でも、北方町の土地の広さや財源を考えると難しさもあるかもしれない。 ・子育て支援センターを作りたい。でも、場所の確保が難しいから、今ある児童館をうまく利用できないだろうか。 	教育 学び	学校の勉強が楽しくなるような工夫がなされている町 動物園や博物館など、学べる施設がある町 など	レジャー スポーツ	スポーツクラブの発足 動物やペットに優しい場所がたくさんある町 など	伝統文化	文化財をテーマにした博物館 円鏡寺をテーマにしたアニメを作りたい など	<p>研②</p> <p>班内で提案の交流を行い、似たような意見や関係しそうな意見を丸で囲ったり、線で繋いだりして自分たちで考えを価値付けていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分類分けが作業だけにとどまらないよう、共通点や相違点を考えながら聞くよう声をかける。また、その提案が、北方町の財源や環境も考慮されているかを踏まえたものであるかも考えられるようにする。 ・なかなか決まらない生徒には、だれの考えに一番共感したかを問い、テーマを決められるようにする。
教育 学び	学校の勉強が楽しくなるような工夫がなされている町 動物園や博物館など、学べる施設がある町 など							
レジャー スポーツ	スポーツクラブの発足 動物やペットに優しい場所がたくさんある町 など							
伝統文化	文化財をテーマにした博物館 円鏡寺をテーマにしたアニメを作りたい など							
全体交流	<p>4 全体交流で自分が気になった分類を決める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これから子育て世代が増えると思ったから、「教育・子育て」にした。 ・高齢化社会の今、もっと高齢者に優しい街になるといいなあと思ってこのテーマにした。 	<p>研③</p> <p>自分が選択した大分類と選択理由、今後の方針を記述する。</p>						
まとめ 振り返り	<p>5 全体交流で出た大分類から自分が気になるものを選択し、その理由や今後どのように探究したいかを書く。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> 北方町には高齢者が多く住んでいると思い、「高齢者・福祉」を選びました。車がない高齢者の方でも自由に出かけられるよう、これから、コミュニティバスや気軽に集まれる場所をもっと増やしていけたらいいなと思いました。今後は、福祉に力を入れている市町村を調べて、提案を考えたいと思います。 </div>	<p>【評価規準】</p> <p>「こんな町にしたい」という願いから大分類を作成し、その中から探究テーマと今後の方針を決定している。</p> <p>【行動観察、記述】</p>						

9年4組 理科学習指導案

1 単元名 (14/21)

「地球と宇宙」

2 指導について

本単元で扱う「惑星」では、時間的・空間的な見方を働かせながら、地球から見た天体の見え方と実際の天体の動きを関連付けながら、惑星についての理解を深めていく。例えば、同じ天体でも時間によって見える場所が違ったり、季節によって見える天体が違ったりすることを、地球の自転や公転の動きと関連付けて考えていく。その過程で、天体を俯瞰で見ることができるモデルを用いることで、時間的・空間的な見方を働かせながら理解を深めていく。

本時で扱う金星は、明け方東の空に見える「明けの明星」と夕方西の空に見える「宵の明星」がある。これは地球の自転と金星の位置関係が大きく関わっている。金星は内惑星といい、地球よりも内側を公転している天体のため、見える季節が限られる。地球が自転していることによって見える時間帯も限られてくる。また、地球から見ると太陽の光が当たっている面の見える割合が変化するため、満ち欠けをしているように見える。さらには、地球と金星の距離によって見かけの大きさが変化する。

本時は、金星が満ち欠けして見える理由と、距離によって見かけの大きさが変化して見える理由を考えていく。モデル実習を行い、金星の公転によって、地球と金星と太陽の位置関係が変化することに気付かせ、位置関係の変化が満ち欠けと見かけの大きさの変化に関係していることを見出せるようにする。モデル実習では、地球から見た金星の見え方と、モデル全体を俯瞰して見たときの金星と地球と太陽の位置関係を関係づけて捉えられるようにする。そのために、金星の位置を変化させるたびに地球からの見え方を確認することで、金星の位置と地球からの見え方が結びつくようにする。また、金星の見かけの大きさの変化については、モデル実習において、地球視点でスコープを使って覗く実験を行う。そうすることで、スコープの枠のサイズと比較することができ、金星の位置が地球から遠いと小さく見えて、地球から近いと大きく見えることを見出せるようにする。

4 研究との関わり

研究①に関わって

実験計画立案では、地球を基準に太陽と金星の位置と金星の動きを考えていくことで、課題解決の見通しをもてるようにする。また、月の満ち欠けの学習を思い出すように声をかけることで、金星の公転が満ち欠けに関係しているのではないかという解決の見通しをもてるようにする。

研究②に関わって

自分の考えを記入する際、「その考えはモデル実習のどこから言えるの？」や「なぜ、そのように考えたの？」などの声をかけることで、事実をもとにした考えをもてるようにする。また、仲間の考えや結果をもとに、課題に対する自分の考えの妥当性を検討する時間を設けることで、より確かな考えをもつことができるようにする。

研究③に関わって

太陽と金星の位置関係に着目してモデル実習の計画を立てて調べる過程で、実験方法や自分の考察が妥当かどうか探究の過程を振り返る。そのとき、太陽、金星、地球を俯瞰する視点と地球からの視点で考えるように促す。

6 本時のねらい

金星の満ち欠けの様子や見かけの大きさの変化を調べるモデル実習を通して、太陽と金星の位置関係が変化していることに気づき、金星が満ち欠けをする理由と見かけの大きさが変化する理由を考えることができる。
【思考・判断・表現】

7 本時の展開 (14/21)

展開	学習活動	指導・援助
導入	1. NHK for School の動画を視聴する。 ・金星の見かけの大きさが変わったね。 ・満ち欠けの向きも変わったね。 2. 動画から気付いたことを基に課題を作る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 課題 金星の見かけの大きさが変わったり、満ち欠けをしたりするのはなぜだろう。 </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 研①：問題や課題に対して、解決の見通しをもつ場の設定 ・月の満ち欠けの学習を思い出すように声をかけることで、金星の公転が満ち欠けに関係しているのではないかという解決の見通しをもてるようにする。 ・黒板で金星、地球、太陽の位置関係を確認することで、どのグループも位置関係を理解したうえで実験できるようにする。 ・「見かけの大きさと金星の位置の関係はどうか？」と声をかけることで、金星の大きさと位置関係をとらえられるようにする。 </div>
展開	3. 金星・地球・太陽の位置関係を確認する。(全体) ・地球がこの位置にあるから太陽の位置はどこかな… ・どんな位置関係で置けばいいんだろう。 ・金星は太陽の周りを回っていて地球よりも内側にあるから… 4. 予想を立てる。 ・月のときは月が公転して光っている部分が地球から見える割合が変化したから金星も同じような理由なのかな。 ・金星が地球から遠いと小さく見えるのではないかな。 5. 右図のようなモデルを用いて実習を行う。(グループ) ・金星は公転しているから太陽の周りを回さないといけなね。 ・金星が地球から遠いと小さく見えるね。近いと大きいね。 ・金星の位置によって光が当たっているところの見える割合が変化していくね。 <div style="text-align: center;">  <p>金星のモデル 地平線シート 観察ミラー</p> </div> 6. 実習からわかった事実をもとに自分の考えをつくる。(個人) ・金星と太陽と地球の位置関係が変化すると、地球から見て金星に光が当たっているところの見える割合が変化していくから満ち欠けをする。 ・地球から金星の距離が遠いと見かけの大きさは小さくなり、距離が近いと見かけの大きさは大きくなる。 7. 交流を通して自分の考えの妥当性を検討する。(グループ→個人) ・課題に立ち返って、自分の考えを見直したり、仲間の考えをもとに自分の考えを見直したりする。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 研②：事実をもとにした自分の考えの形成 ・「その考えはモデル実習のどこから言えるの？」と声をかけることで、事実をもとにした考えをもてるようにする。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 研③：理科の学びや、探究の過程を振り返る場の設定 ・課題や予想に立ち返ったり、仲間の考えを聞いたりして振り返ることで、より確かな考えをもつことができるようにする。 </div>
まとめ	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ○まとめ 地球から金星の距離が遠いと見かけの大きさは小さくなり、距離が近いと見かけの大きさは大きくなる。また、金星と太陽と地球の位置関係が変化すると、地球から見て金星に光が当たっているところの見える割合が変化していくから満ち欠けをする。 </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 評価規準 金星と太陽と地球の位置関係の変化が満ち欠けや大きさの変化に関係していることを説明している。 【ノートの記事・発言の内容】 </div>

なかよし1・2組

生活単元学習 学習指導案

1 単元名 (6/9)

「きたがくえん なかよしクリスマス大きくせん」

2 指導について

昨年度に引き続き、今年度も、なかよし1組・2組では生活単元学習を合同で行う場面を何度か設定してきた。昨年度は下級生だった児童が、学年が上がって上級生となったことで、してもらって嬉しかったことを思い出して、下級生に優しい言葉をかけたり、手を取って教えたりする姿が、生活単元学習だけでなく、掃除などの場面でも見られるようになった。

一方、どちらの学級においても、自分の気持ちについて適切な言葉を使って話したり、相手の気持ちを考えながら行動したりすることに弱さが見られる。

前単元「ハロウィーンまつり」では、飾りをつくって支援学級の仲間や校内の先生方に見に来てもらおうと計画して取り組んだ。その結果、仲間と協力して活動することの楽しさや、自分たちの活動が相手を笑顔にしたこと、それにより自分たちも嬉しい気持ちになったことを実感できるようにすることができた。

本単元は、前単元より児童の活動を広げ、つくったクリスマスの飾りを校内に掲示することで、全校の皆に喜んでもらいたいと計画した。飾りについては、全校の児童生徒や、先生方にアンケートを取り、その結果をもとに作製することにした。また、なかよし1組・2組でつくった飾りを、他の支援学級にも広めて一緒につくることで、特別支援学級全体の取組として、全校に披露したいと考えている。

前時は、集計結果をもとに、2組の児童の説明を聞いてクリスマスの飾りをいくつか作製した。本時は、クリスマスリースの作り方を1組が2組に伝え、一緒に作製する。

生活単元学習では、三つの評価の窓を設定し、本時の課題と一緒に振り返ることができるようにしている。♥は『仲間と関わることができたか』、👉は『道具を安全に使えたか』、🌟は『色や形などに着目し、工夫してつくることができたか』、児童に分かりやすいようマークで表したものを毎時間掲示し、振り返りを行ってきた。

本単元を通して、仲間との関わりを楽しみ、相手を意識して話したり行動したりすることの大切さに気付くことで、適切な言葉を使って自分の思いや考える姿を育てていきたい。また、より多くの仲間喜んでもらうことを通して、自己有用感を感じられるようにしていきたい。

4 研究との関わり

研究①に関わって

きれいな飾りをつくるために、話す順序、声の大きさ、話す速さなど、相手に伝わることを意識して説明する活動を取り入れた。聞くことについては、説明を聞いた後に質問タイムを設定することで、しっかりと説明を聞くことを意識できるようにした。

また、一人一人の発達や特性に合わせて指導するため、個々の実態を表にまとめ、それぞれに本時の指導目標を設定した。また、予想される姿や教師の対応なども記した。(別表1・2)

研究②に関わって

飾りをつくる製作活動は、他者を意識し、協力して行えるよう、ペアで行うこととした。また、製作途中にペアで解決できないことが起きた時は、周りの児童に助けを求めてもよいこととした。ペアについては、1組と2組が一人ずつペアになるようにした。

研究③に関わって

1組は、めあてを意識して活動したことで、どんな気持ちになったかを発表する。言葉にすることが難しい児童については、活動の写真を見て自分の姿を思い出したり、周りの児童が代わりに話したりする。

2組は、前時自分たちの説明の仕方が生かされていたこと、1組の説明を聞いたことで作りやすかったこと、次に生かしたいこと等について、活動の姿をもとに発表する。

児童が、自分の学びや仲間との関わりのよさを実感できるよう、振り返りの時間だけでなく、授業全体において即時評価を行っていく。また、評価の手立てとして写真や動画を用いていく。

6 本時のねらい

- 1組：クリスマスの飾りのつくり方を説明する活動を通して、相手に分かりやすいよう、工夫して説明することができる。【思考・判断・表現】
 2組：1組のつくり方を聞く活動を通して、前時を思い出して同じところを見つけたり、質問したりしながら聞くことができる。【思考・判断・表現】

7 本時の展開 (6/9)

展開	学習活動	指導・援助	
導入	<p>1. 本時の見通しをもつ。 ・前時の活動の様子を振り返る。 ・本時の活動内容を知る。</p> <p>2. 本時のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>ぜんこうのみんながよろこんでくれる、すてきなかざりをつくろう。</p> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>1組 おおきなこえで、わかるように、せつめいしよう。</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>2組 たいせつなところはどこか、かんがえてきこう。</p> </div> </div>	<p>T1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体の進行 ・写真を使って前時を振り返り、本時のめあてを確認する。 ・フラッシュカード(各クラスのめあて)を貼る。 ・説明するための支援を個に応じて行う。 ・写真は、説明の前に黒板に貼るよう声をかける。 ・児童の良い姿について、即時評価する。 	<p>T2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の支援 ・前時どんなことに気を付けて説明したか、2組の児童が発表できるように、支援する。 ・話を聞くための支援を個に応じて行う。 ・児童の良い姿について、即時評価する。
展開	<p>3. 1組が2組につくり方を説明する。 (1組) ・話型を使って話す。 ・自分が説明する写真の前に立って話す。 ・大切なところは、指で指し示しながら話す。 ・質問がないか聞く。</p> <p>(2組) ・話す人や資料を見ながら ・反応しながら聞く。 ・分からないところがあれば質問する。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>研① 児童の実態に応じた支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・別表1・2参照 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>研② 相手を意識できるような教師の働きかけ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・困ったことがあれば、ペアの子に聞いて助けを求めよう、声をかける。 ・ペアで解決できないことは、周りの仲間聞いてみるよう、声をかける。 ・話すことが苦手な児童には「ヘルプシート」を伝えるよう準備する。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>研③ 自分の言葉で表現できる振り返りの場の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「嬉しかった」「楽しかった」と振り返った児童には、「何が楽しかったか」「どうして嬉しかったか」と問い返し、理由が言えるようにする。 ・活動中の写真や動画(関わり合う姿)を提示し、評価することで、関わりのよさを実感できるようにする。 </div>	
まとめ	<p>4. ペアに分かれて制作をする。 ○ペアの確認をする。 ○材料の場所について知らせる。 ○安全面での注意事項を知らせる。</p> <div style="border: 1px solid black; height: 150px; width: 100%;"></div> <p>5. 各クラスで振り返りをする。 (1組) ・大きな声で説明できた。 ・2組のほうを見て説明できた。 ・2組の子が説明を聞いてくれて嬉しかった。</p> <p>(2組) ・1組の子の説明が分かりやすかった。 ・分かりやすかったからまちがえずにつくれた ・きれいにできたから、全校の子が喜んでくれそう。</p> <p>6. 全体で振り返りをする。</p>		